

## 東京高齢者協同組合設立総会へ向けて

### — 6.22 設立準備会の報告から —

田中 羊子 (東京都/日本労働者協同組合・センター事業団東京事業本部)

#### 東京でのここまでの取り組みの経過

##### 9.14…こんな設立総会をめざしたい

東京では、高齢者協同組合の設立の日を今年の9月14日(土)(於、日比谷公会堂)と決め、今、全力あげてその準備に取り組んでいます。この日の設立総会は、東京だけのものではなく、全国でのここまでの高齢者協同組合運動の取組が総集約され、また首都東京での高齢者協同組合の誕生を高らかに宣言することを通じて、その後の全国各地の新たな設立に大きなはずみをつけるようなものにしたいと願っています。

そのためにも東京各地の高齢者の主体者としてのパワーと結び合い、高齢者協同組合の高齢者自身による事業・運動を、できることから生き生きとつくり出し、その躍動する姿が全面に登場するような設立総会にしようと、その内実づくりを進めてきました。

#### 高齢者の協同への思い、前向きなエネルギーとの出会い

東京での本格的な準備活動は、昨年12月9日、池袋で開催した「東京高齢者協同組合設立宣言シンポジウム」から始まりました。その後、2月の高齢者協同組合公開基礎講座、都内13カ所での地域懇談会の開催を通じて、のべ800人の高齢者の皆さんと出会い、語り合ってきました。

その中で、私たちは、何よりも、地域の高齢者の「協同」への思いの深さを知り、豊かな高齢期を自らつくり出そうとする前向きなエネルギーを実感することができました。企業社会の矛盾の中

で働き、退職後は今までとは違う価値観を大切に生きたいと願う高齢者の姿、元気なうちに、少しでも、人に役立つことに自分の力を活かしたいという思い、今から高齢期のやりがいの持てる仕事や活動の場を準備したいと、地域で仲間や情報を求める4～50代の人たち——。その一方で地域に目を向けてみると、そんな思いを持つ高齢者の活躍の場が、いかに少ないか、またいかに孤立の中で生きているか、高齢者の尊厳が大切にされていない実態もリアルに見えてきました。

ここにこそ、高齢者協同組合が、今後広がっていく基盤があるし、自らの充実と、人や地域に役立つことを結んで行動を起こしたいと願う人たちが、私たちの回りに、本当に広く存在することを、実感することができました。

#### 地域準備会の発足

…できることから一歩を踏み出そう

3月には、地域懇談会で出会った人たちを中心に、都内8カ所で地域準備会を発足しました。(北区、板橋、練馬、江戸川、足立、南部、三多摩、浮間)そして、「できることから足を踏み出そう」を合言葉に、地域の高齢者自身による生き生きとした活動が始まっています。

高齢者協同組合を、もっと地域の人たちに知らせ、仲間をふやそうと、各地で様々な行事を企画しました。お花見交流会、社交ダンスパーティー、健康料理教室、若返り歌の集い、歩く会、体験介護教室、仕事おこし懇談会など。どの行事でも、みんなの思いが語り合われ、高齢者同士や若い世代の人たちとの心の交流や、地域での協同を大切

に思う気持ちが、生まれています。また、小さなことからでも、自分たちの手でつくっていく楽しさ、仲間が広がる喜び、そして1つ1つやりとげることでの自信が高齢者の間に生まれています。

### 高齢者の仕事おこしへの挑戦

地域準備会に集まる皆さんの大きな関心は、「仕事おこし」にあります。もうけるためではなく、自分自身や、同じ高齢者が必要としていることに応える仕事おこしをしたい——というのが、共通する思いです。南部では「ハンド工房」をつくり、手づくりの介護用品や、市販していないサイズの障害者手帳用の定期入れの製作に取りこんでいます。練馬では、業者まかせにせず、自分たちの手で心のこもった葬儀のあり方を考え、事業化する試みに盛りあがっています。足立では、バラマウント製靴共働社2階を、たまり場に提供してもらい、そこを高齢者の生活総合センターにしよう、どんな相談にものれて、ヘルパーや配食、家庭の営繕や水もれ修理など、元気な高齢者がサービスも提供できるような仕事おこしの準備を進めています。

### 高齢者の生活をサポートする事業の準備

#### …ヘルパー配食・宅老所

母体となっている労働者協同組合では、高齢者が体が弱っても、人間らしく生きることを支えるための事業を準備してきました。高齢者協同組合員が困った時に、心のこもった質の高いサービスを提供し、また組合員にも、様々にこうした事業を育て支えてもらおうというものです。

●ヘルプ事業 現在、北区（浮間）、武蔵野市、町田市ですでにセンター事業団がヘルプ事業を始めており、50名のヘルパーが活躍しています。東京全域にヘルパーを育成しようと、東京都指定の3級ヘルパー講座を2回（浮間）、2級講座を1回（武蔵野）開催してきました。9月へ向けて、さらに3級講座を練馬（7月～）と足立（9月～）で、2級講座を浮間で開催し、ヘルプ事業を大きくしていこうとしています。また、武蔵野では、全労済から、地域福祉助成金を受け、24H巡回型介護事業も、今年度出発させる見込みです。

●配食サービス 北区では、配食サービスのモデル事業化に取りこんでいます。高齢者にも、盛りつけや配達に力を発揮してもらいながら配食サービスを実現し、また、たまり場をつくり、会食やサークル活動の拠点にもなるような事業をめざします。

●共同宅老所 町田では、ヘルプ事業の経験を発展させ、家族や高齢者自身が、いつでも安心して利用でき、元気な高齢者も、話し相手やボランティアで活躍できるような共同の宅老所づくりに取りこんでいます。

### 6.22設立準備大集会を設立への飛躍のバネに

地域の高齢者の主体的な姿が全面に登場した集会

こうしたここまでの準備の到達点を生き生きと伝え、設立総会へ向けて、より広い人たちとの出会いと新しい力の結集をはかろうと、6月22日には、「東京高齢者協同組合設立準備大集会」を科学技術館で開催しました。当日は220名の参加。

第1部では、労協連永戸理事長のあいさつに続き、日本医科大学教授の竹内孝仁先生から、記念講演をいただきました。「医療は生活に出会えるか」に書かれた、特別養護老人ホームでの、ねりきりの高齢者が、食事を食堂でとり、オムツをはずし、女性をくどく意欲や助け合う心を高めていく感動的な実践が語られました。また、「ねたきり」になる、さまざまな社会的要因を分析し、「仲間や知り合いがいる地域、社会的な人と人とのきずなを再生することが、ねたきりにならない道。高齢者協同組合はその点で、大変意味のある取り組みだと感じ、呼びかけ人を引きうけた」と、私たちに強く励ましてくださいました。（竹内先生は、当日謝礼をカンパして下さり、その場で2口出資し、組合員になって下さった。）

第2部は、都内8カ所の地域準備会の代表が全員舞台に上がり、ここまでの取り組みや、高齢者協同組合で実現したい夢を生き活きと語りました。仲間づくりや仕事おこしへの挑戦、労協で働きながら感じる高齢者協同組合の必要、9.14設立総会成功への思いなど——。この高齢者協同組合

を必要と感じる、当事者である高齢者たちの自由で、エネルギーで、誇りにあふれた姿が、集会参加者に確かな感動を与えたように思います。また、私たちも、9月14日へ向けて、いよいよ全力あげた取りくみをやりぬこうと決意を新たにしました。

### 大きなマスコミの反響

幸にも、翌日の読売新聞と朝日新聞に、この集会のことが報道され、1週間は、東京事業本部の電話は鳴りっぱなし。170件の資料請求がありました。電話では「加入したい」という声や、「何か役立ちたい」「仕事をしたい」という声が相次ぎ、36名の方が、すぐに加入してくださいました。これから、様々な地域懇談会や、イベントを企画しながら、お問い合わせ下さった方たちとのしっかりした、結びつきをつくりたいと思っています。

また、この集会を前後して、各ボランティア団体や老人大学、大学の研究者など各界から、170人もの方々が、呼びかけ人になることをお引きうけ下さるFAXが、次々と、事務所に入っています。一步一步ですが、東京での設立への期待や賛同が、広い分野の人たちの間に拡がりつつあることに勇気づけられます。

### 地域世話人たちが動き始めた

何よりもうれしいことは各地域準備会から代表として選出された世話人の皆さんが、この集会を契機に、資料や加入申し込み書を手にして、地域を真剣に回り始めたことです。

自分が、以前働いていた会社の労働組合や、地域の高齢者の集会、女性問題や福祉の地域での学習会、友人など、様々なところで精一杯、協力や加入を呼びかけています。

その中で、弁護士や研究者の方の支援や、日比谷公会堂の隣の、帝国ホテルで当日、レセプションが開けるかもしれない——など、夢のような話も起きています。

地域世話人や準備会の高齢者、そしてわがセンター事業団の組合員が本気になって立ちあがったとき、すごいネットワークが生まれるし、みんな

の力で日比谷公会堂を満杯にするのも夢じゃない——との実感を持ちつつあります。

### 9.14設立総会の成功に全力を集めて

9.14設立総会まで、残すところ2カ月となりました。労働者協同組合のメンバーと地域準備会の高齢者が、本気になって周囲に呼びかける状況をつくること。そして、ここまで出合った1000人の高齢者たちへ加入のお願いをし、しっかりと結び合うこと。さらにいっそう新たな人との出会いを広げ、高齢者協同組合への加入と、設立総会への参加を広く訴えることに全力をあげます。

具体的には、次の5つの行動を柱にとりくみます。

(1) 8/25、高齢者協同組合設立プレ集会、高齢者の手による人と地域に役立つ仕事おこしワークショップ、の企画を、実行委員会方式で準備し、500人の参加で成功させる。

(2) (養護学校をかりきり、高齢者協同組合で実現したい様々な仕事おこしや、仲間づくりの企画を、パネルやディスカッションや、実演コーナーで体現し、高齢者の学園祭(又は縁日)のような形で、みんなが参加し、様々な可能性を実感できるようにしたい。)

(3) 企業に働きかけ、高齢者協同組合への支援や、社員への説明会の開催をお願いする。

(4) 自治体への賛同・支援の要請行動を行う。

(5) マスコミ、ミニコミなど、あらゆる手段で8.25プレ企画と、9.14設立総会への参加を呼びかける。

(6) 加入申込書と、賛同署名をもって、1人1人が1人でも多くの高齢者にあたりつくす。

東京では、下から高齢者自身が主体となってつくりあげる取りくみにこだわってきました。そのことの良さが全面にあふれ、センターの仲間と、地域の高齢者の協同作業で成功させたと、みんなが心から実感し、感動できる設立総会をめざし、最後の追いこみに、力を尽くしたいと思います。